

エチゼンクラゲの分離網漁具開発試験

(第2 県土水産資源調査)

石田健次・由木雄一

1. 研究目的

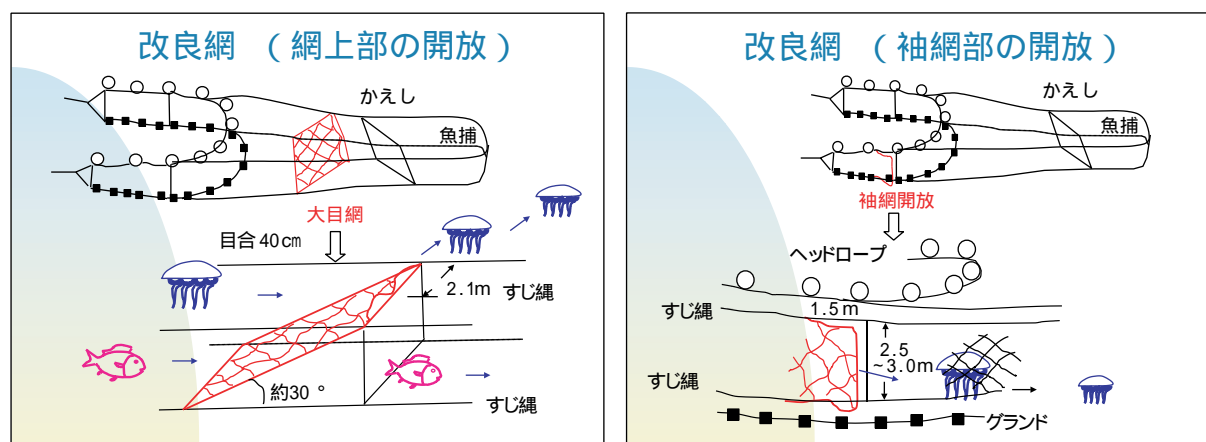
7年ぶりに大発生したエチゼンクラゲ(以下クラゲという)により、底びき網を始め、まき網、定置網などで、漁具の破損や漁獲物の減少、選別妨害などといった被害が発生し、小型機船漁業協議会から、クラゲを除去できる底びき網漁具の開発試験について要請が行われた。そこで、クラゲと漁獲物を分離する底びき網の開発試験を実施した。

2. 研究方法

調査は益田沖および江津沖の水深108~116mの海域で、平成14年11月6~16日に行った。クラゲを除去するためにトロール網を改造し、島根丸による操業で、改造を加えない従来の網との漁獲性能に関する比較試験を行った。

網の改造は、①袖網の一部を開放し、袖網伝いに入網するクラゲを袖網から除去する方法(以下袖網開放という)、②入網したクラゲを大目網で遮断し、網の上部に誘導し開放部から除去する方法(以下上網開放という)である。

曳網時間は原則40分とし、結果を比較する際は1時間当りに換算して行った。漁獲物の処理はクラゲ、魚介類、ゴミ(投棄魚など)に分けて種類ごとに計量を行った。



3. 研究結果

試験操業は改造無しを3回、袖網開放を2回、上網開放を2回の計7回である。ただし、上網開放の1回は操業トラブルがあったためデータを得ることができなかった。クラゲの入網は改造無しが1,639 kg/h、袖網開放が216 kg/h、上網開放が62 kg/hとなり、両方の改造網ともにクラゲ除去の効果が見られる。一方、魚介類とゴミの量はそれぞれの網ごとに大差がなく、この程度の漁獲量では開放部からの魚介類の逃避は多くないものと思われる。

漁獲された有用魚介類は28種が確認された。最も漁獲量が多かった種はキダイで、全体の約40%を占めた。次にウマズラハギ16%、マダイ11%、ケンサキイカ7%、マトウダイ5%、カイワリ5%、ヒメジ4%となっている。ケンサキイカは改造網の漁獲が少なく、逆に、ウマズラハギは改造網の漁獲量が多くなっている。キダイは網ごとに大差なく、マダイは上網開放の量が少ないという結果であった。